

北海道地震

停電、ほぼ全域解消 死者19人、心肺停止11人

毎日新聞 2018年9月8日 東京夕刊

北海道で起きた最大震度7の地震で、北海道電力は8日午前8時現在で、北海道のほぼ全域の約295万戸のうち99%にあたる約293万戸で停電が解消したと発表した。道などの同日午前の集計では、厚真（あつま）町で新たに1人の死亡が確認され、死者は19人になった。11人が心肺停止で、9人の安否が分かっていない。新千歳空港は同日朝から国内線に加えて国際線の運航を再開した。

北海道電力によると、一時停止していた火力発電所を再稼働させるなどして314万キロワットの出力を確保したが、厚真町などを中心に約1万9600戸に電気が通っていない。

北海道全域が停電になるブラックアウトを防ぐにはピーク時の380万キロワットの供給を確保することが必要となる。菅義偉官房長官は8日午前の記者会見で「節電がうまくいかない場合は、計画停電も必要になるだろう。こうした事態を極力避け、全ての道民に電気が行き渡るようにするため、最大限の節電の協力をお願いする」と話した。

大規模な土砂崩れがあった厚真町で新たに死亡が確認されたのは三上昭人さん（54）。地震による死者は、厚真町で16人、新ひだか町で1人、苫小牧市で1人、むかわ町で1人。道によると、8日午前10時現在の避難者は437カ所の避難所で1万1900人。

交通網は復旧し始めた。7日に国内線の運航が始まった新千歳空港は、8日午前9時ごろから国際線も運航を再開。同日は約90便を予定している。JR北海道は同日朝から札幌近郊の路線の運転を再開した。道警によると、約1万3000カ所ある信号機のうち、7日午後8時半現在で約8割が復旧した。

気象庁によると、7日午後10時43分に厚真町で震度4を観測する地震があった。最初の揺れ以降、震度1以上の地震は8日午前11時現在で130回に達した。【川上珠実、日下部元美、池田知広】

迫る72時間あきらめぬ 9人不明の厚真町

地震発生から丸2日が経過し、生存率が急激に低下する「72時間」が迫る中、9人が安否不明の北海道厚真町では、救助隊による懸命な捜索が夜通し続けられた。

多くの被害があった同町吉野地区。山から滑り落ちた土砂は木々を巻き込み、家屋を押しつぶして畑にまで流れ込んでいた。安否不明者の自宅と見られる周辺では、約5～6メートルの高さに積み上がった土砂を陸上自衛隊員らが掘り進めると、へし折れた木柱やひしゃげ

た窓のサッシ、ぼろぼろのカーテンが次々と現れた。その後、航空自衛隊の救助犬部隊が到着。「誰かいませんか」「返事をしてください」。数匹の救助犬を誘導しながら、隊員が声をかけて反応を探る。搜索地点を絞り、再び隊員らが十数人でバラバラになった木片をかき分け、スコップで掘り進めた。

離れた畑の小道から搜索の様子を見守っていたむかわ町の女性（69）は「ここは親戚の家。連絡が取れず、いてもたってもいられずやって来た。一緒に旅行に行き、地震の前日も遊びに行ったばかりなのに……」と口元をタオルで押さえ、涙ぐんだ。【澤俊太郎】

被害状況

死者 19人

心肺停止 11人

安否不明 9人

けが 401人

（うち重症7人）

避難者 1万1900人

停電 約2万戸

建物被害 全壊30棟

半壊22棟

断水 3万536戸

= 8日午前、北海道などのまとめ

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.